

『神のわざへの招き』 ヨハネ6:22-35

6:22 その翌日、海の向こう岸に立っていた群衆は、そこに小舟が一そうしかなく、またイエスは弟子たちと一緒に小舟にお乗りにならず、ただ弟子たちだけが船出したのを見た。

6:23 しかし、数そうの小舟がテベリヤからきて、主が感謝されたのちパンを人々に食べさせた場所に近づいた。

6:24 群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないと知って、それらの小舟に乗り、イエスをたずねてカペナウムに行った。

6:25 そして、海の向こう岸でイエスに出会ったので言った、「先生、いつ、ここにおいでになったのですか」。

6:26 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。

6:27 朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである」。

6:28 そこで、彼らはイエスに言った、「神のわざを行うために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか」。

6:29 イエスは彼らに答えて言われた、「神がつかわされた者を信じることが、神のわざである」。

6:30 彼らはイエスに言った、「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか。どんなことをして下さいますか。」

6:31 わたしたちの先祖は荒野でマナを食べました。それは『天よりのパンを彼らに与えて食べさせた』と書いてあるとおりです」。

6:32 そこでイエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。天からのパンをあなたがたに与えたのは、モーセではない。天からのまことのパンをあなたがたに与えるのは、わたしの父なのである。

6:33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。

6:34 彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい。」

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」

●序論

再来年前期の朝ドラのモデルが、アンパンマンの作者のやなせたかしさん。

この作品の背景には、やなせさん自身の戦争体験があったと言います。

“正義のための闘いなんて どこにもないのだ

正義は ある日 突然反転する

逆転しない正義は 献身と愛だ

目の前で餓死しそうな人がいるとすれば

その人に 一片のパンをあたえること”

アンパンで作られた自分の顔を、おなかをすかせた人に上げて、…つまり自分を犠牲にして人を助ける姿が印象的です。

彼の体験から生まれた作品が、戦後の大人たちには受け入れられず、その子どもたちには人気が出た不思議。犠牲的愛に感動できるのは子ども…ということでしょう。このやなせさんも、かつて従軍中は、自分は正義のために戦っているという世界の中で生きていました。しかし、そこを一步出て、戦後自分たちの過ちに気づく。

クリスチャンにとってその気づきを与えられるのは、キリストとの出会い、キリストの言葉、聖書のことばではなかったでしょうか。

●本論

I. 自分の本音に気づかされる

さて、毎週の日曜日に、キリスト教の礼拝に集う、クリスチャンは、外からの見ると非常に不思議な存在に見えるかもしれません。

たしかに、それぞれ個人的な悩みや願いもあります。

しかし何よりもまず神さまにその時間をささげ、賛美をささげ、神さまを知り、神さまの言葉に心を向け、また従うことの祝福に”最大の関心を払う”…ことを大切にします。

そしてそれは、それはある意味、他者との違いとなり、また祝福となります。

そんなわたしたちはしばしば聖書のことばから、今の自分の心が探られるのです。

自分自身この礼拝で、わたしは何に最大の関心を寄せているだろうか…。

:26 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。」

「よくよくあなたがたに言うておく」と始まるイエスさまの言葉は「アーメン、アーメン」で始まる、とても大切な真実をお話になる時にイエスさまが用いられた表現です。

それほどに大切な事とは何か？

それは、イエス様を熱心に追いかけて来た人々が気づいていない事でした。

あの前日の男だけでも5千人が養われた、あの奇跡の体験は、イエスさまが救い主キリストであることを指し示す「しるし」であったということです。

ただそれが彼らの心に響いておらず、むしろ彼らの欲求に結びついていたことをイエスさまは、お示しになったのです。

こういう気づきをうながす言葉を大切に聴くことができれば感謝です。

そうして、さらにイエス様の言葉に聞くことができます。

「:27 朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。これは人の子があなたがたに与えるものである。父なる神は、人の子にそれをゆだねられたのである」。

II. ただイエスを信じる。

先ほどのイエス様の言葉「働く」に、人々は食いつきました。

:28)「神のわざを行うために、わたしたちは何をしたらよいでしょうか」。

さきほどの「朽ちる食べ物のためではなく、…朽ちない食べ物のために…」というところ

ろから、この問答は始まりました。

人々はそう聞いて、それを得るためにどうしたらよいのか、何をしたらよいのか…というのが、すぐあった反応です。

それに対するイエス様の答えはとてもシンプルです。

:29)「神がつかわされた者を信じるのが、神のわざである。」

それがイエスさまご自身を指して言われているとすぐ群衆はわかったようです。

だから、彼らはまたもや、イエス様の言葉に食いつきました。

:30…「わたしたちが見てあなたを信じるために、どんなしるしを行って下さいますか。どんなことをして下さいますか。」

そこには、このイエスさまであろうと、わたしもそれを食べた…けれども…「ただ信じる」ということが、受け入れられないでいる人々の現実を見ます。

そういうなら、さらに証明してほしい。今もこれからもお腹を満たす食物をもって…ここでイエス様と民衆の間に、ズレが生じていることに気がつかされます。

こういうズレが、人と人との間に、そして色々な場面で見られます。

そのためには時に、「気づかせていただくこと」が、大切なことなのです。

改めてイエスさまと一緒にいて、その言葉に聞いて、そしてともに歩んでいるとわかることがあります。

それはこの方は、わたしたちの願いを叶えてくれるわたしに便利な方としておられるのではないと。むしろ、この方に信頼して歩む事で、わたしたち自身が変わられる。わたしの願いそのものを変えてくださることに気づかされるのです。

信じて共に歩むことでそんな変化を経験できる、それこそ神わざです。

すべて見えるものが朽ち果て、失っても、そこにかげがえのないものが残される。

主が共にいる！だから大丈夫。それが福音の祝福です。

Ⅲ. そのズレが癒される

イエス様と人々の問答の間にズレ、ちぐはぐさがある。

6:33 神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである」。

6:34 彼らはイエスに言った、「主よ、そのパンをいつもわたしたちに下さい」。

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

人は、自分の関心や自分の求めているものを手放して、ただイエス様の言葉に耳を傾ける…ということができないでいて、まさにイエスさまとの対話の中で、ズレを経験します。

それは、いつでも私たちの歩みは、「私が出発点」「私の関心」「わたしの願望」ということが中心にあるからでしょうね。 主の祈りを思い出して下さい。

天にまします我らの父よ。願わくは御名をあげさせたまえ。

御国を来たせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。

ここでは人々の関心の的にある「日ごとの食物」の前に、まず神さまの御心がなりま

すように…と祈っています。

この主の祈りを大切に、心から、毎日祈り続けることを通して、自分出発、自分中心の信仰から、神さま中心の信仰生活へと、ズレからの癒しを経験していきます。そんな癒しの中で、わかってくるのが、実は、神さまがわたしたちに与えようとしてくださっている大切な霊的な祝福があるということです。それが、「いのちのパン」、神のパンは、天から下ってきて、この世に命を与えるものである…という事実です。

罪という自己中心に傾きやすい私たちを、イエス様はよくご存じです。「自分出発」になりやすい私たちに、イエス様は、そのズレを承知で、人々に、そしてわたしたちに言葉をかけてくださいます。

:35)「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

神さまがくださろうとしている者へわたしたちの目を向ける招きがここに 있습니다。そしてそれこそイエスさまを信じて生きること、神わざなのだとわかります。

さいごに)

それは、あの2011年の東日本大震災で、未曾有の大災害を経験したあの頃、ラジオなどで多くリクエストのあった歌が、あのアンパンマンの主題歌だそうです。

“そうだ うれしいんだ 生きるよろこび たとえ 胸のキズがいたんでも”
かつてアンパンマンの語るメッセージは大人にはズレているように見えた。それが”
ああ、これなんだ”とわかるようになった…というのです。

あらためて、イエス・キリストの福音のメッセージは、わたしたちにとって、また全世界の人たちにとって、まさにそれ以上のかけがえのないものであることを覚えていてください。

:35)「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。

この方を信じること、これこそ神のわざだと言われているのです。